



新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

国際社会で
活躍する未来の
リーダーを育てます。



新潟大学で学び「高い専門性に立脚したグローバル人材」へ

「グローバル人材」ということが頻繁に使われるようになって久しいですが、「グローバル人材」とはそもそもどういう人なのでしょうか。外国語を流暢に話すことができれば「グローバル人材」なのでしょうか。

新潟大学では、深い教養と確かな専門性、そして高い倫理観を有した上で、日本語・外国語による高度なコミュニケーション力を備えた人材を育成すべき「グローバル人材」像を考えています。

そうした人材像のイメージを持っていただけるよう、グローバルに活躍する卒業生、国際経験を積む学生たち、そして国際経験が豊富な教員を、今回は法学部、工学部、医学部から取り上げ、新潟大学の事業を紹介しています。

本冊子が「高い専門性に立脚したグローバル人材」を育成する「新潟大学グローバル人材育成推進事業」の理解の一助となれば幸いです。



新潟大学グローバル人材育成推進事業
Project for the Promotion of Global Competency



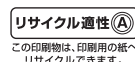
新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

新潟大学グローバル人材育成推進事業について → 新潟大学学務部国際課 025-262-7628

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地 URL <http://www.niigata-u.ac.jp/intl/ghrd/>

※グローバル教育プログラムの履修や留学が全員に義務付けられるわけではありません。

※本パンフレットに掲載されている情報は2015年12月現在のものであり、変更となる場合があります。



事業紹介 (担当副学長挨拶)

新潟大学は、2012年度に「グローバル人材育成推進事業」として国が重点支援する42校のうちの1校に選ばれました。新潟大学は今まで以上に学生の「グローバル対応力」の強化に力を入れています。私たちが目指すのは、「高い専門性に立脚したグローバル人材」の育成です。初年次から高度な外国語能力と国際教育を身につけることのできるプログラムを用意し、また専門教育においても外国語能力を育成する教育を推進しています。

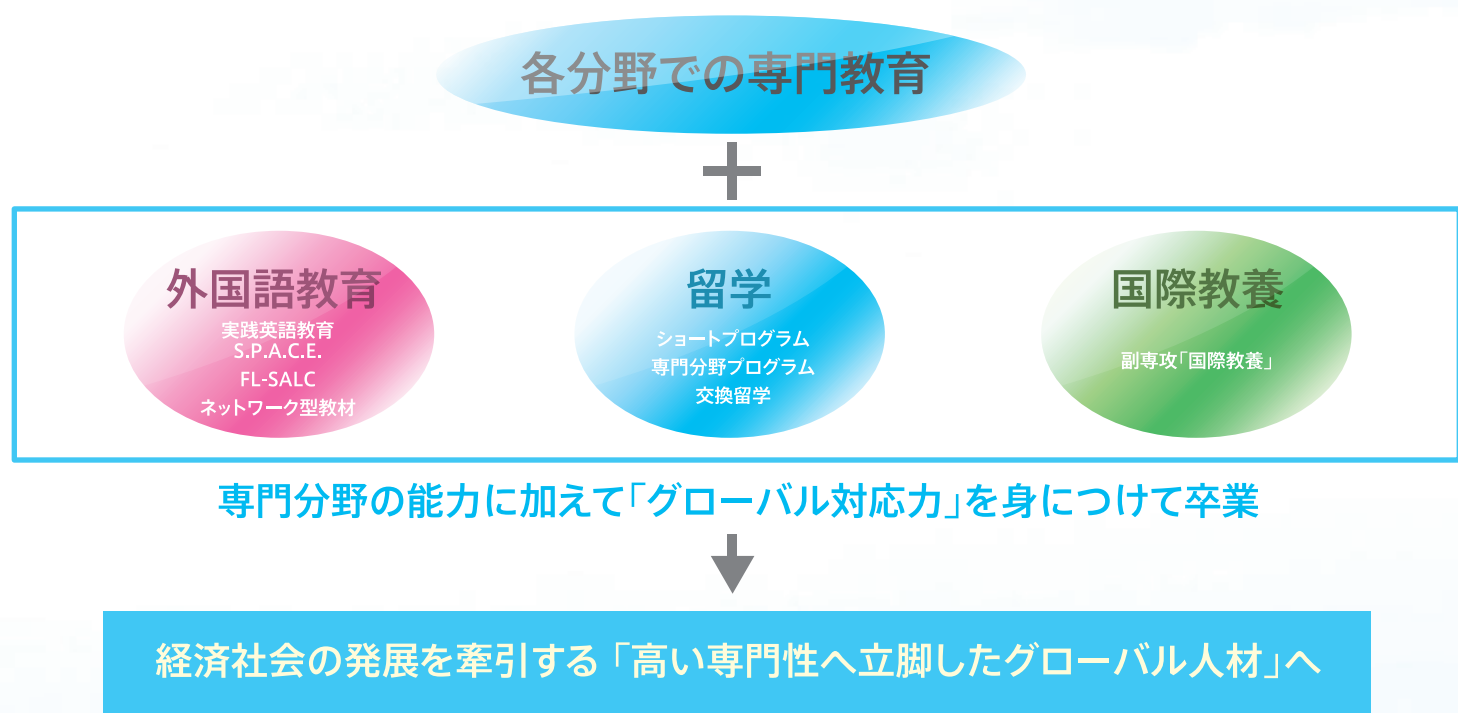
社会で活躍するためにはことばによるコミュニケーション能力のほかに職業上の専門知識と教養が必要とされるように、世界で働くためには、外国語ができるだけでは十分ではありません。高度な職業人として外国で活躍することができるためには専門の知識が不可欠です。新潟大学では、例えば、法学部では国際的な法律業務・行政実務・企業活動を担うことができる人材を、工学部では国際社会で活躍できるグローバルエンジニアを、医学部では日本の医師免許に加え、米国医師免許を取得し、世界の医療現場で活躍できる医師の養成を目指しています。

あなたも新潟大学で、外国語を自由に駆使できると同時に教養と専門を身につけたグローバル人材を目指しませんか。



副学長(国際担当) 桑原聡 教授

九州大学大学院修了。大学院在学中に、ボン大学(ドイツ)に2年間研究留学。1995-1997にドイツ政府の招へいによりベルリン・フンボルト大学に研究滞在。新潟大学助教授、教授を経て現職。



副専攻「国際教養」

副専攻制度とは:新潟大学では、意欲ある学生が、複数の分野で体系的に学ぶことのできる「副専攻制度」を全国の大学に先駆けて導入しました。副専攻は、新大生の将来の可能性を広げます。「主専攻+副専攻」により、例えば「環境に詳しいエンジニア」や、「科学に詳しいジャーナリスト」など、各学生の個性に合わせた「なりたい自分」の実現をサポートします。副専攻には「課題別副専攻」と「分野別副専攻」という2つのタイプのプログラムがあります。「課題別副専攻」は、全学で開講されている科目を分野横断的に統合したテーマカリキュラムであり、「分野別副専攻」は特定の学問分野の授業科目から作られたプログラムです。

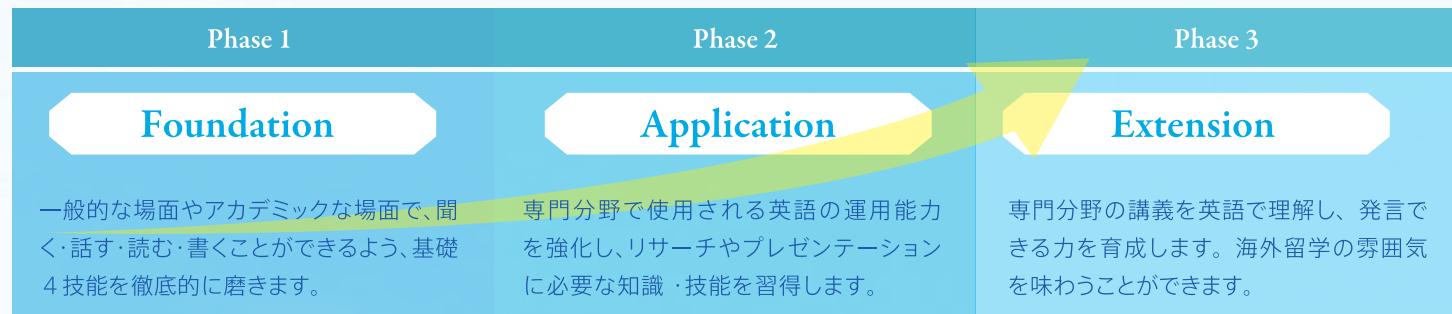
副専攻「国際教養」とは:課題別副専攻「国際教養」プログラムは、海外留学に関心のある学生に対して、海外留学の意義と具体的な方法についての知識、日常会話及び専門講義への橋渡しとしての外国語コミュニケーション能力、我が国と諸外国の文化についての知識とそれらを尊重しようとする態度を育成する授業を提供するものとして2015年度に新たに開設されたプログラムです。グローバル化の進展に伴い、国際的に活躍できる人材の育成が求められています。この有効な手段として考えられるのが海外留学ですが、その意義や方法について学べる場は極めて限られています。課題別副専攻「国際教養」は、こうした内容について体系的に学ぶことができるプログラムです。



外国語教育 英語

新しい実践英語プログラム S.P.A.C.E.

2013年度から、グローバル人材を育成するための新しい実践英語教育プログラム“S.P.A.C.E.(Skills Program for Academic and Content English)”をスタートしました※。プログラムは3学期にわたる階層的なものになっており、このプログラムを修めることにより、それぞれの専門領域で、グローバルに活躍する人材として社会に貢献していく素地を築くことができます。



※S.P.A.C.E.は、2016年度は法学部、工学部、医学部医学科の1・2年生を対象に開講予定です。2017年度以降の内容及び対象学部については検討中です。

外国語学習支援スペース FL-SALC

図書館内に外国語学習支援スペース“FL-SALC(Foreign Language Self-Access Learning Center)”を設置しています。FL-SALCでは、留学生との英語・初修外国語による自由会話、英語のライティング支援や発音指導、テーマ別グループ学習、英語学習カウンセリングなどを行っています。



留学

豊富な留学プログラム

新潟大学では留学の機会を幅広く提供しています。より多くの学生に国際経験の場を提供するために、海外が初めての学生でも参加しやすい「ショートプログラム」から、海外で各学部での専門分野を短期間学んでみる「専門分野プログラム」、さらには1学期又は2学期間の「交換留学」へと、段階を追って留学できるプログラムを用意しています。



奨学金による経済的なサポート

2012年度から2015年度は、多くのプログラムが(独)日本学生支援機構(JASSO)の給付型奨学金の支給対象プログラムとなっており、JASSOの定める要件を満たす学生に対してはほぼ全員に6-10万円の返済不要の奨学金を支給しています。交換留学する学生は、7割程度がJASSOの月額6-8万円の給付型奨学金を受給しています。2016年度の奨学金支給対象プログラム及び交換留学する学生向けの奨学金支給対象人数は、2016年3月頃に決定する予定です。

卒業生 グローバルに活躍する卒業生



田口貴子さん (写真右下端)

1998年法学部卒

現職：外務省経済局 WTO 紛争処理室

私は現在、外務省経済局世界貿易機関（WTO）紛争処理室で、国家間の経済紛争の処理に係る仕事をしています。大学時代は法律が好きになれず、むしろ当時関心のあった政治学や語学等を幅広く学びました。これも自己の関心を自由に追求できる柔軟な履修のあり方を認めてくれた新潟大学法学部のおかげです。在学時代に米国に留学し、米国知識層の国際政治の捉え方に衝撃を受け、また英語で対等に議論する難しさを痛感しました。総じて充実した学生生活の中で、実は法律は最後まで苦手でしたが、今では膨大な文書と格闘しながら、外国の訴訟のプロを相手に、通商法を駆使して英語で日本の立場の正当性を主張しているのですから不思議です。しかし、大学時代に政治に興味を持ったことが外交の世界を目指すきっかけとなり、好きな語学を磨き、また苦労しながらも法律を学んだことが今の仕事に役に立っています。学部で学んだことはすべて今の私の基礎となっています。学ぶことは将来の自分への投資です。みなさんも貪欲に学びましょう。



石井一利さん

1998年法学部卒

現職：NHK 報道局国際部デスク

NHKで放送するニュース原稿を作成する仕事をしています。海外にいる特派員などとやりとりして、NHKのニュースでアナウンサーが読む原稿を仕上げるものです。私は、1998年、NHKに入り、記者として仕事を始めました。新潟、仙台の放送局、東京・国際部の記者を経て、2014年までの5年間、中国の広州、北京に特派員として駐在し、現場での取材をしてきました。学生時代は、中国を研究する恩師のもと、国際関係や中国の法律を学び、大学3年生の約1年間中国東北部、黒竜江省ハルビンにある黒竜江大学に留学しました。留学では、中国語の学習のほか、大学の休みなどを利用して、中国各地を訪ね歩きました。当時の中国は、大都市でも車と馬車が併走するような状況で、外国から投資を呼び込み、急速な経済発展をしていました。人々は豊かになろうと懸命に働き、日本や欧米に追いつき追い越せと、国全体に熱気があふれていました。そうした雰囲気を実地で生活しながら感じる事ができたことが、今の仕事に役にたっていると思います。新潟、日本のよさは、外から見ることによって、理解し、気づくことが多いです。特に柔軟性のある考え方ができる学生時代にこそ、海外に出るなど自分の知らない世界に飛び込み、様々な体験をして、多くの人と出会うことが、その後の人生を豊かにすると思います。また、学生時代に、利害関係なく知り合う友人は、人生の宝です。留学でなくても良いですので、外に出て、自分や故郷を見つめることにぜひ挑戦してみてください。

現役学生 国際経験を積む学生たち



原山美紗子さん (写真右)

法学部3年生

日本で半年しかドイツ語を勉強していないにもかかわらずドイツに留学をしたことは、今考えるとよくやったなと思うほどです。ドイツではドイツ語を勉強する授業は全てドイツ語で行われました。おかしなことに、ほとんど意味が分からなかったドイツ語がそのうち理解できるようになってきました。自分が話すドイツ語がドイツ人に通じたり、他国から来た人たちとドイツ語で話をしたりするのは大変喜ばしいことでした。親友と呼べるドイツ人の友達をつくることもできました。1年ものいれば旅行とは違い、良い思い出だけではすみません。ですが、様々な経験ができるからこそ1年間の留学の醍醐味だと思います。少し先を見越しながら行動する力や、選択を求められたときに瞬時に決定する力を身につけることができました。日本から離れてみるからこそ、そして現地に行ってみるからこそ分かることもあると思います。少しでも留学に興味を持ってくれたら嬉しいです。



笠原裕史さん

法学部4年生

1年次には、韓国の釜山大学で日韓の学生が合同で行う「日韓ゼミ」に参加し、英語で日韓の法制度の比較を行いました。2年次には、英語学習プログラムである「プチ留学」に参加し、留学を目指す仲間とともに英語力を鍛え、「北京SVプログラム」では北京大学国際関係学院の講義を受け、現代中国政治の流れを学びました。3年次には清華大学における「北京サマーセミナー」に参加してダイレクトメソッドによる中国語の講義を受け、その後、北京大学国際関係学院への1年間に渡る留学も実現しました。このように、新潟大学には多様な留学プログラムが存在しており、個々人の目的に応じた留学が出来ると思います。現在は1970年代の日本の外交路線と対中政策の関係の研究をしており、今後は各プログラムでの留学の経験を活かし、自身の研究分野である日中関係の研究を通して日中友好に寄与していければと考えています。

教員 教員も国際経験が豊富です



神田豊隆 准教授

東京大学大学院修了・博士（学術）

ケンブリッジ大学客員研究員を経て現職

「グローバル人材」というものに私自身が当てはまるわけではありませんが、私は研究者として国際的交流に努めてきました。

私の専門分野は日本政治外交史で、特に第二次世界大戦後の日本外交の研究をしています。戦後の国際政治史も、近年は各国の研究者と共同で研究を進める機会が増えています。これまで私は、欧州や米国、中国などの研究プロジェクトに関わってきましたが、日本からの発信は、むしろ海外の側から必要とされていると感じることも多いです。アジアの歴史において、第二次大戦はもちろん、冷戦、脱植民地化、経済成長といった重要な主題を日本抜きに語ることは出来ませんし、日本の学界での研究成果が、海外で大きな関心を集めることもあります。

国が異なると、言葉だけではなく、研究者の関心も学界の文化も異なり、様々な壁に直面します。しかし、そうした障害を共に克服しようという外国の研究者と仕事を進めるのは、非常に楽しくもあります。



ケンブリッジ大学で日本外交の講義

法学部グローバル教育プログラム

グローバルな視点を獲得するための多様なプログラム

「外国語によるコミュニケーション能力」＋「法学部生としての専門知識」の両方をバランスよく修得し、国際業務に従事できるだけでなく、日本国内にいても歴史・文化・価値観などの違いを理解し地域社会で活躍できるようになるための多様なプログラムを用意しています。

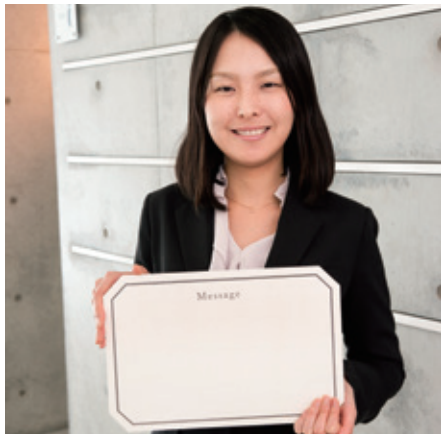
1 年	2 年	3 年	4 年
S.P.A.C.E. Phase 1	S.P.A.C.E. Phase 2	S.P.A.C.E. Phase 3	外国語による専門科目 - Introduction to Western Legal System - Introduction to Japanese Politics, Basic - Basic Theory of Income Taxation, etc
	新潟deプチ留学(新潟大学での擬似留学)	留学 ■交流協定校 ・ブリストル大学 (英国) ・ミュンスター大学 (ドイツ) ・北京大学 (中国) ・清華大学 (中国) ・アルバータ大学 (カナダ)	・仁荷大学 (韓国) ・漢陽大学 (韓国) ・ナント大学 (フランス) 等
	サマーセミナー(アルバータ大学・清華大学)		
	外国語検定試験対策講座＋外国語検定受験 ・法学部では、外国語検定としてTOEIC、TOEFLをはじめ、中国語検定、HSK(漢語水平考試)、韓国語能力検定、ハングル能力検定等の受験をサポートしています		
■基礎教育 ・一般教養 ・基礎科目 ・基礎演習 民事法、刑事法、政治学、外国研究など、法学部で学ぶための基礎学力を身につける	■専門基礎教育 ・法学、政治学等、将来の進路に合わせ、それぞれの専門科目を学ぶ		■社会人準備教育 ・少人数で行う演習で批判的考察を身につける ・卒業研究 (Junior Research Paper) を作成する作業を通して文書作成能力を培う ・インターンシップで実務を経験する

※グローバル教育プログラムの履修や留学が全員に義務付けられるわけではありません。

グローバル教育プログラム

専門教育

卒業生 グローバルに活躍する卒業生



佐藤歩さん

2008年工学部卒

2010年大学院自然科学研究科(博士前期課程)修了

現職：ボッシュ株式会社
ガソリンシステム事業部

私はボッシュ株式会社というドイツ系の会社で、自動車部品の開発プロセスサポートの仕事をしています。全世界共通の開発プロセスを作る仕事をしているため、海外との電話会議も毎週あります。また、技術職ですが、メールの9割以上は英語です。

外資系の会社に入ったきっかけは修士1年生の時のドイツ留学です。英語はそこそこ、ドイツ語はさっぱりでしたが、好奇心とやる気だけで、共同研究をしていた新潟大学の協定校であるマグデブルク大学に留学しました。

たった半年ではありましたが、そこで身に付けた英語力とコミュニケーション能力のおかげで、今の仕事ができているのだと思います。

新大生みなさんはぜひ、面倒くさがらずに国内外の様々な人と交流していただきたいと思います。その先に生きた学びがあり、自分の進路選択の幅を広げることにつながります。



現役学生 国際経験を積む学生たち



梅木遼さん

大学院自然科学研究科
博士前期課程2年生(2014年工学部卒)

私は工学部を卒業後、現在は大学院の研究室に所属し、レーザを用いた物体振動計測の研究をしています。大学3年時にドイツの協定校に1年間留学し、大学院進学後はアリゾナ大学(アメリカ)に4ヶ月間研究生として留学しました。ドイツでは電気電子工学の専門科目の単位を取得し、アメリカでは眼球・コンタクトレンズの表面形状計測に関する最先端の研究を学びました。海外の大学は学生の年齢・国籍・経歴が非常に多様化しているため、日本で当たり前と思っていたことが大きく覆されるような経験も多々あります。試験の為に勉強していた英語が、専門を学び多くの人とコミュニケーションを取るためのツールであることを実感しました。現地の学生や留学生と各国の料理を囲み、様々な話題について意見を交わした時間は非常に有意義なものでした。各国からの留学生が自国を紹介する機会も多く、私自身も“Japan Festival”を企画し大勢の人の前で「日本」について英語でプレゼンテーションしました。外国と日本の考え方や文化・生活の違いを感じながら、自らの将来について考える時間を持てたことはその後の就職を考える際に非常に役立ったと感じます。就職活動では留学経験を評価して頂き、大学院修了後はプラントエンジニアとしてグローバル企業に勤めることが決まっています。留学に対して不安もあると思いますが、必ず新しい体験や発見が待っています。是非留学への一歩を踏み出してみてください。

「グローバル人材育成推進事業」の一環として1年半にわたって英語を集中的に勉強するプログラムを受けていました。ここでは読み書きはもちろんのこと、英語を話すことやプレゼンテーションなど、他では学ぶ機会のないような実用的な面も練習できました。短期間ですが内閣府のプログラムでラオスに訪問した際も会話は全て英語で、授業で扱った慣用表現はとても役に立ちました。また、ラオスでは将来の夢の方向性を定めることができ、さらに必ず叶えたいと強く思うようになりました。ラオス人の友達ともまだ連絡を取っており、ラオスに再び会いに行く計画も立てています。

専攻の工学とは関係のなさそうな英語ですが、ラオスで働く方は「英語はできて当たり前」の時代だと言います。英語ができて更に工学などの専門知識がある人が必要とされているのだそうです。日常会話ができても専門分野で使える英語ではありませんから、今後は仕事としても使える英語を身に付けていくつもりです。

授業でも留学でも感じたことですが、使わないと英語の力は伸びません。様々なプログラムに参加することで仲間から刺激を受けることもあります。留学は敷居が高いかもかもしれませんが、その分得るものが大きいのも確かです。

岸田まりなさん

工学部3年生

教員 教員も国際経験が豊富です



工学部長 田邊裕治 教授

新潟大学大学院工学研究科修了、
東北大学工学部助手、
新潟大学工学部助教授を経て現職。
1992年から1994年にかけて、
ロンドン大学に客員研究員として研究滞在。

大学生のとき、長期遠洋航海実習でTahitiとSan Franciscoに行ったのが初めての海外経験でした。次の海外経験として、英国で学ぶ機会を得たのは30代の後半で、2年間を彼の地で過ごしました。Bone Mechanicsの大家であるProfessor Bonfieldの下でどうしても研究がしたくて、それこそ何十通もの手紙を必死で書いた覚えがあります。思いがかなって彼の地に渡りましたが、頭の上を飛び越える英語について行くのがやっとの毎日でした。英語は勿論、普段の生活までタイと中国の留学生に随分と助けて貰いました。最大の収穫は何と言っても海外の友人が出来たことだと思っています。20年以上経った今でも、お互いに行き来していて、英国に行けなかったらこうはならなかっただろうと思います。また、何か落ち込んだとき、行き詰まったときに連絡すると、ScotlandのIsle of Skyeの青い空が写った写真が1枚送られてきたりします。これはどういう意味?なかなか粋な心遣いとは思いませんか。

工学部では、6名の外国人数員に加え、30%程度の教員が1年以上の海外留学を経験しており、短期留学経験者は相当数に上ります。また、海外大学との共同研究や国際学会での発表が精力的に行われています。国際経験豊富な教員が学部全体でグローバル人材育成に取り組んでいます。

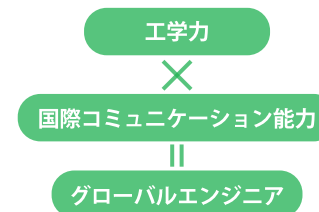


イギリスでの研究滞在中

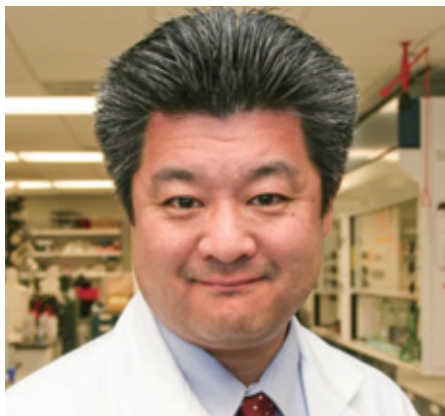
工学部グローバル教育プログラム

工学の幅広い基礎力と高い専門性を身につけ、国際コミュニケーション能力と異文化理解を備えた21世紀の国際社会で活躍できるグローバルエンジニアを育成します。

- S.P.A.C.E.+e-ラーニング自己学習+専門技術英語+TOEICによる「英語力」の修得プログラム
- 協定締結大学への学生派遣「Swing-By Visit(海外体験型)」、「Swing-By Study(海外研究型)」
- 海外勤務経験者、外国人研究者による特別講義



卒業生 グローバルに活躍する卒業生



高部和明さん

1987年医学部卒

現職：バージニアコモンウェルス大学
医学部腫瘍外科、生化学・分子生物学
准教授（外科医、医学博士）

僕は大学2年の夏に米国エール大学へ語学留学したとき英語力のなさを痛感しました。それから毎日英語の勉強をするようになり、海外で自分の見識を深める喜びを知りました。

その結果、新潟大学の教授陣の尽力もあり、在学中に英国ニューカッスル大学、仏国SAMU de Paris、米国ピッツバーグ大学へ短期留学することができました。そうして世界標準を知ると、逆に新潟大学生としての強み、即ち十のことをしようとする時には十二の実力をもって臨もうとする校風を実感しました。在学中にはまどろっこしくも感じたその実直の精神は世に高く評価されるもので、米国で外科医としてのみならず研究者、教育者としての自分を築き上げる礎になりました。新潟大学生の諸君には、海外から学ぶのみならず新潟の実直の精神をもって実力を培い、世界へインパクトを与える仕事をする人材として活躍してほしいです。

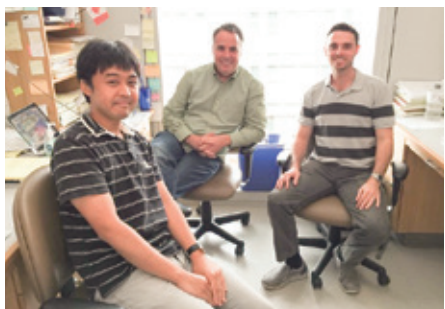


1991年、英国ニューカッスル大学短期留学



1992年、SAMU de Paris短期留学

現役学生 国際経験を積む学生たち



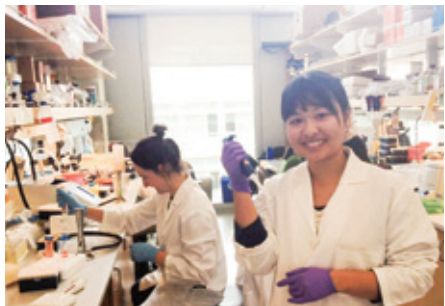
岡本淳一さん

医学部5年生

医学部医学科では、8週間にわたって先端の医学研究を体験する「基礎研究配属」が必修となっています。学内の研究室や県外の施設だけでなく、海外の大学等で実習を行う学生も多く、私はアメリカのカリフォルニア大学サンディエゴ校で実習を行いました。受け入れ先の教授は、私が2年生の時に新潟大学に特別講演に来られた先生で、その時の出会いが、今回の実習チャンスをいただくきっかけとなりました。

私が所属した小児感染症のラボは、9か国から研究者が集う国際色豊かな所でした。当初は英語に不安もありましたが、日本で準備してきたことを総動員して新しい世界に飛び込んだ2ヶ月間は、やりがいにも満ち溢れるものでした。実験とミーティングにとことん時間を割ける米国特有の研究システム、毎日のように特別講演が催されるアカデミックな環境、さらには笑顔の絶えない温かいメンバーと一緒に研究できる日々にも恵まれ、サンディエゴでの経験はかけがえのない貴重な財産となりました。

今後も本実習の経験を生かし、日本だけでなくアメリカでも医師として経験を積む、という将来の夢を叶え、国内外で社会に貢献できる医師に成長して、お世話になった方々に恩返しをしたいです。



深掘響子さん

医学部4年生

私は「基礎研究配属」で約7週間、小児科学教室からカリフォルニア大学サンディエゴ校の“Nizet Lab”に留学しました。この研究室では、ドイツやイラン、オーストラリアなど世界中から研究者が集まり、細菌と自然免疫の最新の研究が行われていました。刺激的な環境で、実験手技だけでなく実験の組み立て方やデータの分析の仕方も学ぶことができ、研究の面白さを存分に知りました。

ジョークが飛び交う会話が活発な研究室で、英語面でもとても勉強になりました。また、異文化が混ざり合う開放感あふれるサンディエゴも楽しむことができました。他にも、小児病院の見学など貴重な体験がたくさんあり、世界に通用する医師になるという夢に近づく大きなステップとなりました。多くの先生、先輩にお世話になり、本当に感謝しています。

教員 教員も国際経験が豊富です



齋藤昭彦 教授

新潟大学医学部卒

米国小児科・小児感染症専門医、医学博士
南カリフォルニア大学小児科レジデント、
カリフォルニア大学サンディエゴ校助教授
等を経て現職

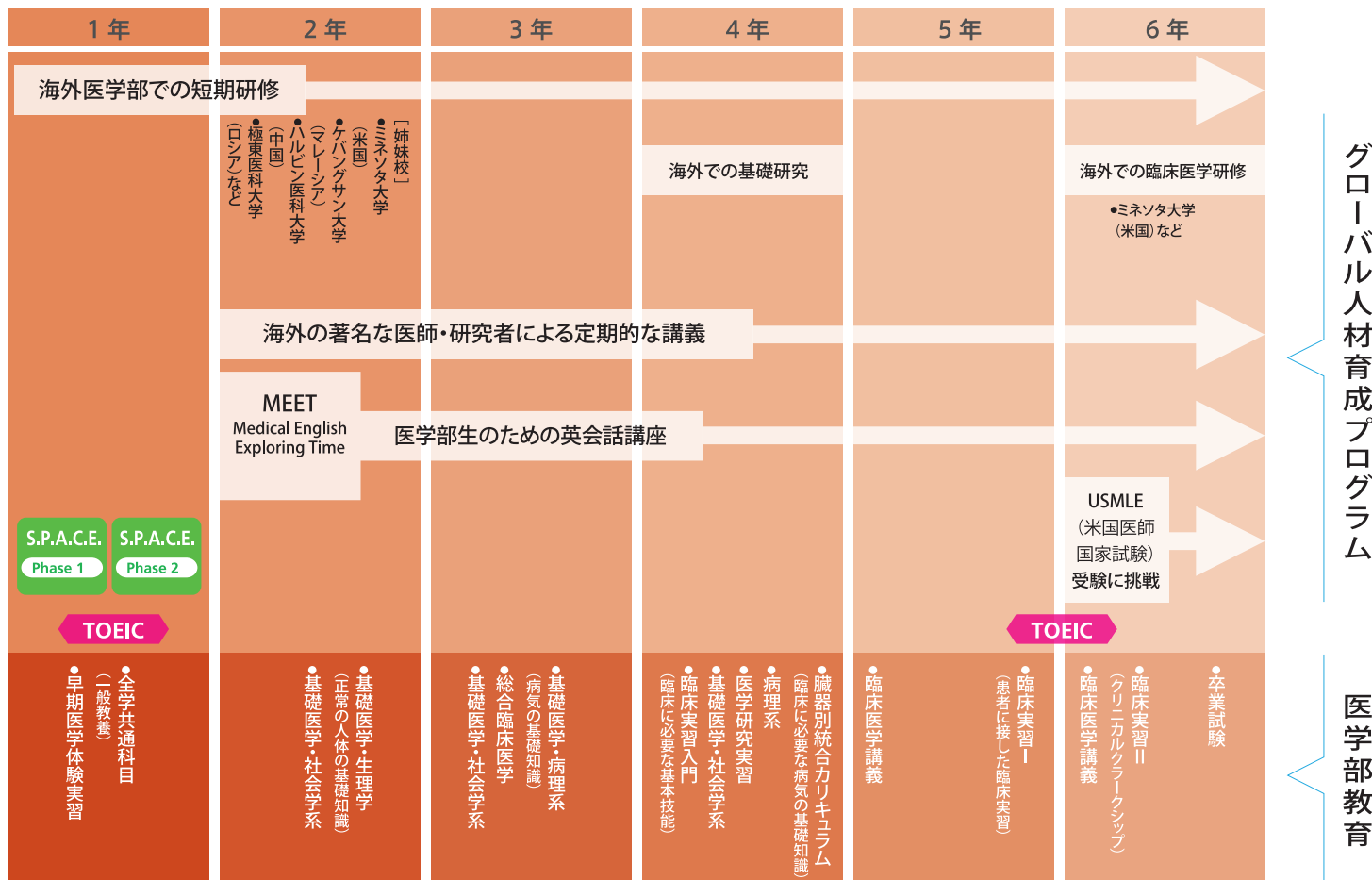
私は、小児感染症専門医として、トレーニングの時期を含めると計13年間、米国の大学で臨床医・研究者として仕事をしてきました。そこで出会った多くの仕事の同僚、友人、患者さんから得た経験は何にも代えがたく、今の私の人生の礎になっています。2012年度以降、私は医学部でのGGJ（グローバル人材育成推進事業）活動の統括をしていますが、教育経験豊富な英語を母国語とする教師による英会話教室、米国の医師免許取得を目標とした専門的な医学英語会話教室、延べ33名の海外からの特別講師を迎えての英語での特別授業など、学生だけでなく教職員のグローバル対応力強化のための多くの取組を行っています。また、4年生時の世界各国で行われる基礎医学実習、6年生時の米国ミネソタ大学での臨床実習にも多くの希望者が集まり、大きな成果を残しています。GGJの活動が始まって以来、医学部学生及び卒業生の若手医師から、日本の医師免許に加えて米国の医師免許の試験（基礎医学）に合格した者を8名輩出しており、今後もその数が増えることが期待されています。



海外からの講師を迎えての特別授業

医学部医学科グローバル人材育成プログラム

世界の第一線で活躍している医師や研究者の講演、海外での基礎研究、臨床留学などの経験を通して、グローバルに活躍できる医師、研究者を育成します。



※グローバル人材育成プログラムの履修や留学が全員に義務付けられるわけではありません。

グローバル人材 育成に向けた 全学的取組



人文学部 豊富な外国語学修と多彩な留学経験を



外国人留学生とのパーティー

新潟大学では、英語のみならず、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語など多様な外国語授業を提供しています。それを中心的に担うスタッフが集まる人文学部の特徴は、外国語教育および欧米やアジアなど異文化の専門研究の充実です。学修メニューは豊富で、4年間継続的に外国語を学び続けながら、専門的な知識を深めることが可能です。また、30校以上の海外協定校との交換留学制度により、4年間の在学期間中に休学することなく、海外研修や留学を経験して卒業することができます。留学ガイダンスも定期的に行われ、勉学から日常生活まで、留学経験のある先輩からアドバイスを受けることができます。さらに海外協定校からも毎年多くの留学生を迎え入れており、学部主催で外国人留学生とのパーティーを開催するなど、交流の機会を積極的に増やしています。このような人文学部の取り組みを活かして、是非、留学にチャレンジして下さい。

教育学部 教育を基軸に世界へアプローチする



多文化共生実習

教育学部では、中国の北京連合大学国際交流学院、北京師範大学、同大学附属小学校等の間で長年交流を深めています。「多文化共生実習」の授業では、交流協定校を訪問し、講義受講、附属小学校の児童への日本文化紹介、歴史テーマに即した関係施設見学などを行いますが、「教育」を基軸に、日中友好とアジアの平和の重要性を考える良き機会になっています。協定校との単位互換可能な留学プログラムを活用し、専門性を深めるとともに人間性を磨き、教職に生かす学生もいます。

この他にも、スポーツ系では「アジア大学スポーツ交流プロジェクト」、美術系では海外視察研修、音楽系では海外のアーティストや大学生との演奏交流など、それぞれの専門分野を生かし、諸外国と交流しています。

経済学部 グローバル人材育成に向けた体系的プログラムの構築



台湾での協働ワークショップ

経済学部では、英語の運用力や異文化間コミュニケーション能力の向上を目的とした、「異文化間コミュニケーション」科目群を学部の専門科目として開講しています。また、これらの科目群を、学部間協定を結んでいる海外の大学の講師による英語での経済学・経営学の集中講義や、交流協定校の学生との協働ワークショップと連動させ、グローバル人材育成に向けた体系的なプログラムの構築を図っています。2015年の協働ワークショップは、学部間交流協定を結んでいる国立彰化師範大学(台湾)で1週間ほどの日程で行いました。現地の学生と英語を用いて協働で一つの課題に取り組む過程で、相互理解を深めることができました。

また、交流協定を結んでいる海外の大学へ留学している学生もいます。学生の相互交流を通して、異文化理解を促しています。

理学部 英語コミュニケーション力アップに向けて ー海外姉妹校と英語での研究発表会ー



第3回自然科学国際会議 (ICNS2013)



第4回自然科学国際会議 (ICNS2015)

理学部ではE-ラーニングシステムを用いた「基礎英語コミュニケーション」及び「実践英語コミュニケーション」更に海外英語研修を実施して英語コミュニケーション力のアップを目指しています。また、海外姉妹校の釜慶大学校(韓国)、中山大学(台湾)と新潟大学の間で自然科学の研究発表会 International Congress on Natural Sciences (ICNS)を持ち回りで開催しています。この研究発表会では主に学生が中心となって英語で発表し、活発な議論が行われます。第3回(ICNS2013)は新潟で開催し、韓国・台湾から多数の学生・教員を迎え、数学・物理学・化学・生物学・地学分野の112件の発表が行われました。2015年は台湾で開催され、新潟大学から多くの学生・教員が参加して、研究発表を行い、研究発表会やエキスカージョンを通じて、国を越え、科学の分野を越えて有意義な交流が行われました。

農学部 国際スキル向上へ向けた取組



第5回農学部国際シンポジウム



第4回世界農学部学生会議

農学部は、交流協定を締結しているアジア地域の大学と共に、3年ごとに「農学部国際シンポジウム」を開催しています。2015年度は、チェンマイ大学(タイ)農学部の運営のもとで、チェンマイで第5回シンポジウムを開催し、新潟大学からは30名の学部生・大学院生が参加し、研究発表しました。シンポジウムでは、交流協定を締結しているアジア地域の大学から参加した教員・学生と活発に交流を行いました。また、プトラマレーシア大学が主催する「世界農学部学生会議(IASS)」にも初回から第4回まで連続して学生を派遣しています。参加学生は、お互いの国における農業の現状と課題について議論し、世界中で学ぶ農学生との相互理解と経験の共有をはかっています。第5回IASSは、2016年2月に予定され、学生は準備をすすめています。このように、農学部では国際的な見地に立ち、農学という専門性を基盤にしながら英語の運用能力を高めることができます。

歯学部 口腔保健医療分野におけるグローバル人材育成



メキシコ コアウィラ大学歯学部訪問

歯学部では毎年25名前後の学生を海外に派遣しています。(独)日本学生支援機構(JASSO)の奨学金に申請し、採択されており、留学する多くの学生は6-10万円の返済不要の奨学金を受給しています。当初の留学先は東南アジアが中心で、それぞれの国や地域の特性を生かした研修プログラムが組まれ、現地歯学部学生との交流を深めてきましたが、2014年度からはさらにアメリカ、カナダ、スウェーデンなど欧米諸国の大学・研究機関やスイスのWHO(世界保健機関)にも派遣を開始しました。今後はNIH(アメリカ国立衛生研究所)などの世界トップレベルの研究機関へ、大学院生を6ヶ月から1年派遣することも視野に入れています。

また、歯学部学生による国際交流サークル“NEXUS”を立ち上げ、海外の協定校から受け入れた留学生の支援等さまざまな活動をしており、国際的な視野を持って海外との交流や勉学に励む歯学部学生が多くなっています。

医学部保健学科 伝統医療や問題解決型授業を体験



カナダ マクマスター大学での短期研修



スリランカ ペラデニア大学での短期研修

保健学科では、毎年スリランカのペラデニア大学とカナダのマクマスター大学での海外研修を行っています。スリランカでは、世界三大伝統医学のひとつであるアーユルベダを体験でき、カナダでは、PBL(Problem Based Learning)教育を体験できます。これらの体験を通して、授業への取り組み方が変化したり、グローバルな視野を培うことができたという学生が多いです。また、ペラデニア大学との交流プログラムでは、ペラデニア大学保健学部からの留学生を約5ヶ月間受け入れています。留学生たちは、日本語を学びながら、保健学科の教員から研究指導を受けます。保健学科の学生達は、保健学学術セミナーや観光バスツアーなどを企画し、留学生との交流を楽しんでいます。